

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4675200192号		
法人名	有限会社 福 寿		
事業所名	グループホーム 小山田の里		
所在地	鹿児島県姶良郡加治木町小山田1419番地1 (電 話) 0995-62-7800		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年2月3日	評価確定日	平成21年2月14日

【情報提供票より】 (21年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1 月 26 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤12人, 非常勤5人,	常勤換算14.05人

(2) 建物概要

建物構造	(1号館) 鉄骨 造り	(2号館) 木造平屋 造り
	(1号館) 2階建の1階部分	(2号館) 1階建の1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33000円	36000円	その他の経費(月額)	5,100 円
敷 金	有 (円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	4名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.39 歳	最低	81 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加治木温泉病院(内科・歯科) 浜崎クリニック(内科・歯科) さんのう内科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

庭に多くの種類の花や樹が植えてあり、裏山から鳥の声も聞こえ、野菜づくり・笋掘りなど、身近に季節感を満喫できる環境である。ホーム主催の夏祭りは、地域行事になりつつあり、利用者・家族・子供達・地域住民の楽しみになっている。年2回の避難訓練のほか、毎月防災の日を決め、利用者の安全に特別な配慮が見られる。管理者を中心に、職員協働して、地域密着型サービスとして利用者の尊厳を大切に、毎日のケアを実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期の対応方針については、利用者・家族の希望を聞いて、方針を決めるなど改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価について、職員に説明し、全員で取り組み、自己評価や外部評価をサービスの質向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に多くの参加者に呼びかけ、開催している。ホームの現状や行事への協力など話し合い、多くの意見を引き出し、協力をもらい、サービスの充実や向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に、苦情・相談窓口を明記し、面会時や運営推進会議に家族の参加も呼びかけ、意見や要望を聴く機会を設けている。出された意見は、運営に反映させるよう努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民がお茶飲みや野菜を持って気軽に立ち寄り、地域の小学校や保育園との交流も積極的に進めている。近隣住民が運営推進会議や避難訓練に参加するなど協力体制がある。ホーム主催の夏祭りは地域住民の協力や参加が多く、地域住民の楽しみな行事になっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の分かりやすい理念にあわせ、基本方針を決め、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとしての理念を作り上げている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールの見やすい場所に掲示し、職員会議等で理念を確認し、共有を図り、日々理念にそったサービスを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お茶飲みや野菜をもって、地域住民が気軽に立ち寄り、又、地域の小学校や保育園との交流も積極的に勧めている。事業所の夏祭りは地域住民の参加も多く、地域の楽しい行事になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価について職員に説明し、全員で取り組み、自己評価や外部評価をサービスの向上に活かすように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に多くの参加者に呼びかけ開催している。ホームの現状や行事への協力など話し合い、多くの意見を引き出し、サービスの質向上に活かすように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者に利用者の事や行事等への協力について相談したり、夏祭りに参加して貰っており、関係作りを勧めている。		町担当者に、これからも積極的に、事業所の考え方や現場の実情等を伝え、サービスの課題解決に共に取り組んでいくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の支払い時や面会時に、利用者の様子や職員の異動など報告している。金銭管理も定期的に報告し、健康状態など緊急な場合は電話で報告している		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議で家族からの不満や意見・改善点など表す機会を設けている。出された意見は、運営に反映するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者の馴染みの関係を大切にし、離職によるダメージを少なくする為、ユニット間の職員の協力体制を実施している。採用時は、ホームや認知症について説明し、離職を最小限に抑えるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には、積極的に参加するように勧め、研修報告を職員会議のとき行い、研修の内容を共有している。ホーム内研修も課題に沿って実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの協議会の研修や講演会を通して、他のホームの見学を実施したり、介護支援専門員の交流など、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方には、本人や家族に見学を勧め、入居前も家族等と連携をとり、ホームの状況を理解してもらい、関係作りを行っている。入居後も面会や外出を多く実施し、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩であるという気持ちで支援を行っている。毎日の暮らしの中で、いろいろな事を学び、一緒に笑ったり、涙したり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やかかわりの中で、思いや希望を把握するよう努めている。家族からの聞き取りもして、利用者の希望に添えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や意向を事前に聞き、カンファレンスで職員の意見も取り入れて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じ、定期的にモニタリングを実施し、見直しをしている。必要時は、現状に即した重点計画を作成するなど、臨機応変に見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、買い物や自宅訪問時の外出支援など、本人や家族の状況や希望に添って、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望する主治医の受診を支援している。往診や緊急時の受診など、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、利用者や家族の希望等聞いて、方針は作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、声かけや対応など、プライバシーの確保に取り組んでいる		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは決めているが、利用者の体調や希望にあわせ、起床や食事・入浴時間など利用者のペースを尊重した柔軟な支援を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて献立を決め、野菜の下ごしらえや片付けなど、手伝ってもらっている。利用者と職員が一緒に会話しながら食事し、楽しみになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴日を決め、体調やタイミングをにあわせて、入浴を支援している。入浴を嫌がる方は馴染みの職員が対応する等工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜づくりや庭掃除・洗濯物干し・洗濯物たたみなど役割を持ってもらっている。切干大根や金柑漬け・干し柿等保存食を楽しみながら作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、ホーム内の散策や藤棚の下での昼食・買い物に出かけている。またドライブや初詣・花見等の行事を計画し、戸外に出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、利用者の状況を理解し、目配りや気配り・声かけなどを行っている。近所の協力体制があり、連携が図られ、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署や近隣住民と協力し、避難訓練を実施している。利用者の身体状況を考慮した誘導方法を居室入り口にわかりやすく書き、避難経路も確保できている。災害時の備蓄も準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた献立を作るように努め、摂取量もチェックしている。水分摂取は、それぞれ飲んだ量がわかるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やホールは、広くて明るい。和室や床の間など落ち着いた雰囲気である。縁側やデッキ等ゆったりとした空間から、庭の季節の花が楽しみ、居心地よく過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にタンスや椅子・写真など、使い慣れた物や、好みのものを配置し、その人らしく安心して過ごせるよう、工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。